

コロナに負けるな！

新型コロナウイルス感染症によって、様々な活動が制限されています。学校内外での教育活動も例外ではありません。しかし、制限内で「できること」を進めている学校も数多くあります。「一体感」を大切にしたい2つの学校に話をうかがってきました。

<新しい「運動会」を目指して>

百合台小学校は、5月23日(日)に運動会を開催しました。

昨年度は、平日の3日間に分けて行った運動会でした。各学年が別々の日に行くことで、「運動会をした感じがしない。」という思いが児童や教職員にありました。そこで、「一体感」のある運動会にするために、開催方法を作り上げ、「この日が百合台小の運動会の日」と決めるところから始めました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策や熱中症対策を講じながら、「一体感」を持たせる運動会になるように考えた結果、1日の中で、ペア学年の二つの学年ごとに分かれての開催方法となりました。

開会式は代表委員会の児童が中心となり、全校一斉配信にて開催しました。開会式後は、2・4年生(ペア学年)から校庭に出て競技を行い、ペア学年が入れ替わる形で1・6年生、3・5年生が校庭で競技を行いました。競技を行っていない学年のために、定点カメラを設置し、校庭で行っている競技をいつでもリアルタイムで見られるようにしました。

校庭で競技をしている学年は校庭を広く使ってペアの学年を見ることができたり、ペア学年合同の種目があったりと、感染対策をしながらも、充実感や達成感、そして「一体感」を味わうことができました。



全校で考えたスローガン

保護者の皆さんにもご協力いただき、新しい形での「一体感」が感じられた運動会となりました。

感染拡大防止対策として講じたペア学年ごとの競技の実施という運動会について、長尾校長は、「例えば、2年生の競技のときに、ペアの4年生が係活動として放送を担当する。今までの運動会では5、6年生が担当していた役割を4年生が行う。こういった取組は子供たちにとってはいい経験で、大きな成長が見られた。」と「一体感」以外の収穫があったと話していました。



2学年合同での取り組み綱引き

<「これからの運動会のモデルとして…」>

妙典小学校では、学校運営の理念である「すべての子どもをHAPPINESSに」の下、子供たちの主体性を育てる場の一つとして、運動会を位置づけ、開催しました。2年ぶりの開催にあたって、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策や熱中症対策を十分に行うとともに、「子供たちが成長できる大切な教育活動の場」として、全児童が集まっての開催に向けて準備を進めてきました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、午前中のみで開催や保護者の参観を各家庭1名に制限、そのための開会式の短縮、種目の精選を行いました。また、接触や密集を避けるような競技の工夫も施しました。例えば6年生の借り人競走では紙で作った棒を使い、手をつなぐことがないようにしたり、応援団をなくして大声での応援をなくしたりしました。応援団をなくしたことで、寂しい運動会になると思いきや、思わぬ効果がありました。高学年から自然と沸く歓声や手拍子など、自発的な応援が生まれ、学校全体に一体感が生まれたのです。田中校長は「子供たちの本気の応援に感動をした。」と話していました。

また、会場設営でも、本部席や敬老席をなくし、保護者が参観できる場所を広く確保するなど、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を徹底しました。PTAの方々の誘導によって参観の際の保護者の入れ替えもスムーズに行われました。

運動会後、保護者からは「この状況で運動会が開催できたことにとても感謝している。」「学校が、『運動会は子供たちが成長できる大切な教育活動の場である』ことを第一義に考えたこと、とてもうれしかった。保護者を優先したら、ただの発表会お披露目の場になってしまう。子供たちのことを考えての判断は、とてもうれしく納得のいく形だった。」などの声がありました。「保護者の理解と協力があった成功。本当に感謝しています。」と田中校長。まさに「子供たちを主人公」にするために、たくさんの大人が支えた運動会だったことがわかります。



2年ぶりの運動会に一生懸命な子供たち

歯・口の健康づくりへの関心UPへ!

むし歯予防大会開催

オンラインで開催

6月2日(水)に「第46回むし歯予防大会」がオンラインにて開催されました。大会では、各学校から健歯(むし歯がなく、歯並びも良い)として選ばれた児童生徒と歯科衛生作品(図画・ポスター・作文)に入賞した児童が紹介されました。(入賞作品は、市川市歯科医師会ホームページのイベントギャラリーに掲載されています。)

また、市川市歯科医師会長の石井広志先生から、口腔衛生に関する正しい知識を教えてくださいました。ご家庭でも、むし歯の予防や歯肉の健康、よく噛むことの大切さなど、歯みがきを含めた正しい生活習慣について話題にし、お子様の歯・口の健康づくりへの関心をさらに高めていただきたいと思います。

【保健体育課】



森口 愛梨さんの作品



加納 迅人さんの作品

市川市こども作品展・新聞展

今年度で71回を迎える市川市こども作品展・新聞展が開催されます。毎年市川市文化会館で開催していましたが、大規模改修工事のため今年度の作品展はコルトンプラザ2階コルトンホール、新聞展は市川市生涯学習センター1階展示スペースと会場を分けて開催します。

市立の幼稚園、小・中・義務教育学校・特別支援学校から選ばれた約700点の図工・美術、書写の作品や、学校新聞コンクールの上位入賞作品を展示します。例年と比べ規模は縮小されますが、子供たちの創造力豊かな作品、力強く迫力ある作品は、心温まる作品ばかりです。たくさんの方々のご来場をお待ちしております。

なお、今年度は人数の制限、マスクの着用、消毒等、十分な感染症拡大防止対策を取りながら実施しますが、今後の状況によっては変更になる場合もあります。変更がある場合は、ホームページ等でお知らせします。

日時 11月20日(土)～11月23日(火・祝)
10時00分～17時00分

※但し、入場は16時45分まで

場所 【作品展】コルトンプラザ2階 コルトンホール
【新聞展】市川市生涯学習センター1階展示スペース
【指導課】

田中校長は、「運動会は、下の学年が上の学年の姿を見て、『すごいな』『大きくなったら、こんなことができるようになるんだ』など、自分の未来を見る。それが成長につながる。」と一堂に行った運動会の意義を話してくれました。また、妙典小教職員集団の真摯な姿勢にも触れ、教職員の「子供を第一に考える誠実さ」こそが成功の要因と称えていました。

最後に、田中校長は、今回の運動会を「アフターコロナのモデルとなる運動会」と評し、2年ぶりの運動会の成功に「未来の運動会の形を見た。」と話してくれました。

【教育センター】